

企画・制作 読売新聞西部本社広告局

門司高校最後の卒業式

85年の歴史引継ぎ

新たな旅立ち

国際貿易都市として発展した門司港地区に1923年(大正12年)に創立され、幾多の人材を輩出してきた福岡県立門司高校がきょう31日、県立高校再編計画に伴って「最後の卒業式」を行い、85年の歴史に幕を下ろす。旧制中時代を含めて卒業生1万8491人。同窓生や地域住民に伝統校の名を惜しむ声が強いが、「至誠至純」の校是のもとで培ってきた良き校風は中高一貫教育校の県立門司学園高校に継承される。

県立高校の再編は教育課題の進化や中学卒業生数の減少に対応して教育内容や教育環境の改革・充実を図ることを目標に、2009年度に打ち

出された基本計画とその後の実施計画に基づいて進められてきた。この一環として県内では県立中高一貫教育校が3校開設

され、門司高はそのひとつの県立門司学園高校にバトンを渡すことになった。(他の2校は米町町の舞鶴南等教育学校と、みまご町の舞鶴南高校)



門司高等學校校歌(まきまき)
 礎の海に照る月は
 至誠の鏡くもりなく
 風師の山に積む雪は
 至純の心いさざよし



左側が旧校舎、右側が新校舎(門司市)

校是の「二主義身」に染めて



福岡県立門司高等学校
 校長 谷口 孝文

国際貿易港として隆盛を極めた門司港の地に、八十五年の歴史を刻み込んだ門司高校は本日閉校式を迎えます。

の校是のもとに、活発な教育活動を継続してきました。これは地域の皆様はもとより、関係各位の本校に寄せられた思いの賜物と深く感謝いたします。特に見守り、丸山の地に青春を謳歌した

万八千有余名の卒業生は、今日有為の人才として広く社会を活躍するところで、私どもの望んでます。門司高校の名が皆様の心に永く刻まれ、門司学園高校が大いなる発展を遂げられますように祈っています。

創立85周年主な記念行事(2008年度分)

- 門司みごと発表展(ロード生誕会全参加型)(5月25日)
- 校章「至誠至純 真理探究」記念碑除幕式(5月31日)
- 「扉を開く」部活動企画プロジェクト(5月31日)
- ラグビー部対試合(中興高)・書道部合同舞台発表会と作品展(折尾高)
- 「美術部作品展」(八幡中央高、北九州高専等学校)
- 芸術鑑賞会「オペラ・ガラ 懐しの午後」(9月2日、門司学園中・高校と合同)
- 書展(11月11日～16日、東海部・書道部員とOB、歴代顧問が出品)
- 学校新聞「朝陽」復刊(福岡版330ページ)
- 記念写真集「至誠(154人)」編り「発行」
- 記念DVD製作(85年の歴史を紹介)

中高一貫体制の県立高校に

一方、午後の「母校探訪のつどい」では門司高を支えてきた人々に感謝を贈呈するほか、ビデオ上映で学校活動の歴史を振り返り、教職員、来賓、OJの表彰状が贈呈された。

同日の表彰状は、04年度に門司北高(門司区境南)内に県立門司学園高校307年度に門司高(門司区丸山3丁目)内に県立門司学園高を設

置する手順で進められ、門司高は07年度から「新人入籍生を停止した。しかし、学校を共有する門司学園高」は、校章行事や部活動を合同で行い友情を深めた。

この間、門司高は学校の歴史を記録し、交流のあつた他校や地域への感謝の気持ちを込め、記念写真集の発行や記念DVD製作、「扉を開く」(一部)活動展覧会「プロジェクト」

と銘打った部活動の招待試合、合同展示会などを展開。同窓生も多数参加、協力した。



左側が旧校舎、右側が新校舎(門司市)

とりわけ門司高生が誇りとしてきた校是の「至誠至純 真理探究」については60周年記念庭園の「一徳の庭」の一角に記念碑を建立し、昨年、5月の文化祭に除幕式を行い、中高一貫教育校である門司学園高に伝統の継承を志した。

門司高等学校 沿革

- 1923年 県立門司中学校として開校
- 48年 学制改革に伴い門司立門司高等学校と改称。定例制課程開校
- 49年 学区別、男女共学制を實施
- 2000年 中高一貫教育研究発表校に
- 07年 県立門司学園高等学校が開校
- 08年 創立85周年記念誌発行
- 09年 閉校式(3月31日)